

会議録
令和7年度 第1回総合教育会議

- 1 日 時 令和7年7月28日（月曜日）
午後2時45分～午後4時20分
- 2 場 所 市立中央図書館2階 視聴覚ホール
- 3 出席者 市長 星野 光弘
教育長 山口 武士
委員 宮 陽一
委員 深井 美千代
委員 深野 はるみ
委員 杜多 堯慶
- 4 署名委員 教育長 山口 武士
委員 深井 美千代
- 5 説明職員 教育部長 下田 恭裕
学校統括監 武田 圭介
学校教育課長 鳥山 裕貴
学校教育課指導主事 林 義幸
- 6 事務局職員 政策財務部長 磯谷 雅之
政策企画課長 平 輝軌
政策企画課主査 新井 達也
- 7 傍聴者 0人
- 8 議 事 富士見市児童生徒の体力の現状について

【星野市長】

それでは、本年度1回目の総合教育会議、1学期の会議を開催させていただきたいと思
います。教育委員の先生方には、定例教育委員会会議に引き続いての会議ということにな
りますが、お時間をいただきまして誠にありがとうございます。

それでは、まず議題に入ります前に、本日の会議録の署名委員の指名をさせていただきます
ます。署名委員には山口委員、深井委員を指名させていただきます。よろしくお願いいたします
します。

本日の議題につきましては、富士見市児童生徒の体力の現状について、本市の状況等
をご報告いただきます。また、様々な取組、つるせ台小学校での取組と成果、そして今後の

目指す方向性について報告をいただき、委員の皆様と議論をさせていただきたいと思います。児童生徒が安心して運動に親しめる取組、また、そのための環境作りを一層進めていくつもりでありますので、忌憚のないご意見を頂戴したいと考えているところでございます。それでは、学校教育課、林指導主事よりご説明をさせていただきたいと思います。よろしく願い申し上げます。

【学校教育課 林指導主事】

(富士見市児童生徒の体力の現状について説明)

【星野市長】

本市の体力に関する児童生徒の現状について、データを含めて、報告、解説をいただきありがとうございました。

この後委員の皆様からご質問を頂き、議論を深めてまいりたいと思いますが、その前に私からまず前提となる部分について、確認ということでお伺いをしたいと思います。

データでお示しをいただいた、例えばスライド7番のA+B+Cの児童生徒の割合であるとかそれから、13ページや14ページ等でも、これは意識の部分として、小学生と中学生の運動が好きな割合とか、その前段にあります様々な記録の状況などについてですが、まず例えばスライド7番のA+B+Cの児童生徒の割合は平成30年時には本市において高い数値を示していましたが、令和元年、令和3年、令和4年と見ていくと、数値が落ち込んでいる状況でございます。新型コロナウイルス感染症であるとか、例えば夏季は高温で、なかなか外で遊べないとかですね、環境的な課題も問題としてあったろうと思います。もう一つ短絡的に思いついてしまうのは、一般論として、テレビゲームとか、普段ご家庭にいる放課後、または土日とかを屋内で過ごすなど、どうしてもそうした傾向を思いついてしまうのですが、要因として私が今申し上げたようなことが、往々にしてあるものなのかどうかというようなことについて、解説をお聞きしたいと思います。

【学校教育課 林指導主事】

私が把握しているところのデータで恐縮ですが、平成24年頃から平成30年度に向けて体力は徐々に上がっております。体力低下の要因として三間（さんま）の減少と言われるものがあり、三間というのは三つの間と書いて、三間、一つ目が運動をする空間、二つ目が時間、三つ目が仲間、これらが減少しているということが、課題として平成24年頃から言われておりました。

そこから富士見市としても、様々な運動の取組を充実させたり、体育の行事等を充実させたりすることで平成30年度まで上がっていますが、先ほど市長がおっしゃったように平成30年度以降、コロナ禍などを経て、運動機会の減少、先ほどの三間で言うところの時間が特に大きく減少していたと実感しております。テレビゲームや、今ではSNSなどによるスクリーンタイムの増加も、今回資料としてはお示ししてはませんが一つの課題であるとは感じております。

その中で、運動機会の減少についてですが、データ上の令和5年度のところで中学校の体力が非常に下がっている部分がありますが、1週間あたりの運動時間数を調べたところ、

中学2年生の女子では1週間の総運動時間が富士見市において大きく減少しております。この理由は部活動の縮小だと捉えております。県の方でも部活動の縮小は行われていたが、数値として県の方は、部活動の運動時間が令和4年度から徐々に下がっているのに対して、富士見市では令和4年度の運動時間はそこまで下がっておりません。その後令和5年度において大きく下がり、令和6年度にまた部活動の時間が増加しております。

そこが、ここの中学校のA+B+Cの令和4年度から6年度の結果に反映されたのではないかと私は考えております。先ほどの市長のご質問をまとめさせていただきますと、コロナ禍による運動時間の減少と部活動の縮小、これは新型コロナウイルス感染症だけではなく、教員の働き方改革といったところも要因にあると考えております。

【星野市長】

はい、ありがとうございました。

それともう1点、全体の議論になるように質問させていただきたいと思います。

私は昭和39年に小学校1年生だったのですが、自分が小学生の頃は確か2時間目と3時間目の間に15分の休み時間がありましたが、これは今も変わらないのでしょうか。

【学校教育課 林指導主事】

市内の小学校全てを把握したわけではないのですが、やはりこの運動時間の減少に対して何とか工夫をしようというところで、15分休みはあまりなく、おおよそ20分休みが多いと認識しております。学校によっては、25分の長い休み時間にして、外遊びの時間を少しでも確保しようとしているということを確認しております。

【星野市長】

ありがとうございます。

もう1つは部活動のお話が出たのですが、中学校では部活動が色々と課題としてありますが、部活動はスポーツだけではなく、文化部もございます。

運動に取り組むという環境作りを我々としても進めている。小学生が、先ほどの三間で言うと仲間の減少があるとお話がありましたが、我々の年代でいくと、学校が終わるとバットとボールを持って原っぱに行って野球を始めるのですが、なかなかそういう姿を今見られないと思います。ノスタルジックにそう語ってもしょうがないので先生方から見て、小学生が、ゲームとかではなく、体を動かそうとか体を動かしたいとかいうことは、現実として放課後とか、または長い休み時間の間にはあるのだろうか、その現状について教えてください。

【学校教育課 林指導主事】

子どもたちが運動したくなる、遊んでみたくなる外遊びしたくなる要因については小学校1年生から中学校3年生まで考えると、発達段階が異なるので、まずは小学校というところでいきますと、多くの子どもたちは例えば友達から誘われるといったことや、遊んでみたくなるような遊具があるといった要因が特に小学校においては多いと考えております。全国体力・運動能力、運動習慣等調査であまり運動が好きではないと答えた子で、「今後、

どのようなことがあったら運動してみたいですか」という設問に「友達にすすめられたら、誘われたら運動してみたいくなる」と回答した子が30%ぐらいの割合でいます。実はここで一番多い回答が「自分に合ったスポーツが見つけれたら、運動したくなる」という回答で、市内の子の半数の50%がこのように回答しております。これは県や国でもおよそ同じような割合となるデータが出ていますので、小学校の現実を考えていくと、そのような回答になることはイメージしやすいところなのかなと考えております。

ただ、これが中学校に行きますと、特に男子においては、誘われるからというよりは、専門的な知識を求める割合が少し増えました。中学校の発達段階になってくると少し知識として自分のことを把握しつつ、スポーツや自分の体のことを把握して、運動に親しむようになってくる傾向があると私は考えております。

【星野市長】

自分に合ったスポーツが見つけれたら、という点に関しては、興味があるけど、というスポーツ、運動については子どもスポーツ大学でも6種類のスポーツにトライをしてみようという事業を我々用意しております。乗馬などもございます。そういうことが、子どもたちの選択肢や興味関心好奇心に繋がっていけばいいなと思っています。

それではすみません。一般論でお伺いしたところですが、先生方から、質問またはご意見をいつも通り頂戴したいと思えますいかがでしょうか。すみません、今回も宮先生からスタートお願いします。

【宮委員】

どうもありがとうございました。

つるせ台小学校の取組などを見ると、非常に素晴らしいと思いますが、何点か質問というか、本当に個人的な考えなのですが、発表の中でいくつかのグラフがありましたが、このグラフで令和4年度と5年度において、どちらかで必ず下がっていることがわかります。ここは何らかの原因があるのではないのかと思いますので、その辺りは分析していただければと思います。

それと昔は、子どもたちは色々な遊びをすることで体力がつくということが言われていて、先ほど三間の話がございましたが時間的、場所的、空間的にということであると、例えば公園で遊んだり、鬼ごっこをしたり、かくれんぼもそうですが、色々な遊びをすることで、子どもたちの体力がついてきた。でもそれはどこかの部分に特化したものではなくて、本当に体力全体がついてきていた。なので先ほどありましたように、敏捷性一つを取らないでも、私は短距離とか50メートル走とかの種目が好きで、長距離は苦手でしたが、そんなように色々な子がいるわけなのですが、その中で昔はスポーツテストと言っていました、目標として3級だとか2級だとか1級だとかが付いてきたわけですが、これを目指そうというようなところもあり、今回3級だったけど今度は2級になるように体力をつけよう、というような目標もあったりしました。なんとなく今の子どもたちには目標がないのではないのでしょうか。

それと、体力向上を目指すときに、一つ的能力、例えば前回は握力でしたよね。握力は今回上がっているのでしょうか。一つ的能力を取るような形よりも、スポーツ能力全体の

底上げみたいな形で基本的なところを上げていかないと、毎年毎年これが低かった、あれが低かった、ではなく、全体を引き上げていくような方法があれば良いのではと思います。

その中で先ほど申し上げた遊びというのも一つですし、もう一つ、今回私は全ての小学校の運動会、中学校の体育祭を見に行かせてもらいましたが、中学校で特に思ったことですが、私の記憶では、富士見台中と東中だったのですが準備体操にラジオ体操はやらないのですね。代わりに昔でいうサーキットトレーニングみたいな形で音楽に合わせて縄跳びを一重跳びをやり、二重跳びに変わって、片足跳びに変わってとか、色々なことを何回続けられるか3分くらい競技としてやっていたのですが、体育の先生に聞いたところ準備体操として行っていると聞きました。そういった全身を使うようなサーキットトレーニングのようなものを、体育の授業の前だとか、小学生でも20分間の初めの5分はそういうサーキットトレーニングを、楽しみながらできるようなものがあると良いのではないかと思います。

あと良いのか悪いのかわかりませんが、子どもたちに競争心がなくなってきていて、例えば運動会などで昔あった50メートル走だとかリレーだとか、そういう種目が非常に少なくなっていて、いわゆる順位付けが駄目だという形になってきているところもあるのですが、競争心が多少薄れてきてしまっているのも、順位付けはあっても良いのでは、それが体力全体の向上に繋がってくるのではないかと思います。

以上です。

【学校教育課 林指導主事】

宮委員の今のお話を受けまして、やはり最後の競争心のところについてですが、行事の縮小化などもあり、本市の中学校の体育祭は1日開催で行っている一方で小学校の運動会は半日開催で行われております。運動会が半日になったからといって本来の狙いが達成できていれば、というところもあるのですが、その中で競争をする種目が削減されるということも実際に起きております。

また以前ミニバス大会というのを市内の小学校で行っていたのですが、現在は行われなくなっていて、様々な理由があるかとは思いますが、直接的に他校の子と競い合っていくことが、もちろん課題もあるとは思いますが、メリットの面も多くありますのでそういった機会自体が失われていると、宮委員の話を聞いて私も考えました。

【星野市長】

ありがとうございます。続いて、深井委員お願いします。

【深井委員】

ご説明ありがとうございました。

質問なのですが、スライド資料7ページのグラフは令和7年を見ると少し上がっている傾向がありますが、今後どこまで上がっていくような見通しなのかと、上がった要因などがあればお聞きしたいのですがいかがでしょうか。

【学校教育課 林指導主事】

今後につきましては、もちろん伸ばしてまいりたいと考えておりますが、令和7年度で伸びたところに関しましては、先生方も、授業改善などに尽力したり色々な取組を継続したりしていますが、特に令和6年度においては新しく導入した外部指導者の成果が大きかったものと感じております。

先ほど説明をさせていただいたところですが、子どもたちが専門的な指導を学ぶ機会となるだけではなく、先生方にとっても、特に小学校ですが、先生も体育の授業が得意な方と苦手な方がいる中で新たな指導法を学ぶ機会にもなったということが大きく、授業に惹きつけられた子どもたちがより運動に親しむということにも繋がりますし、それを見た先生方がその指導を継続していくということも成果として大きいと私は考えております。

【深井委員】

外部の指導者は以前23人くらいいらっしゃったと思うのですが、今は増えているのでしょうか。

【学校教育課 林指導主事】

先ほど紹介した方々もそうですが、ダンス教室を運営している方を表現運動の授業で招聘したり、陸上のハードル選手をお呼びさせていただいたりしておりまして、アスリートバンクという形で登録している方は15名で、その方が実際に当日来ることもあれば、その方に教わっている方が指導者として呼ばれるという形もあります。

【山口教育長】

2年前だったと思いますが、夢先生授業というものを諏訪小学校の5年生に受けてもらいまして、そのときの先生がサッカーの日本代表になった永島さん、だいぶ先輩でもうお年は60歳くらいですね、それからもう1人が女性の新体操の先生でオリンピックである坪井先生においでいただいて、2時間ぐらいの授業を行っていただき、実際に体を動かすことや、体を動かすことの楽しさ、目標に向かって様々な運動に挑戦すること、そして夢を持つことが大切だということで子どもたちを引っ張っていく、そういった授業も行いました。本当はこの授業は定例化したいのですが、そういったことも行っております。

【星野市長】

ありがとうございます。深野委員、いかがでしょうか。

【深野委員】

小学校の運動会で、高学年が市内で合同で行っていた運動会は今行っていないのでしょうか。

【学校教育課 林指導主事】

現在は小学校5、6年生で行っております。会場は市内でいうと2会場ございまして、諏訪小学校とみずほ台小学校の2会場です。諏訪小学校に6校、みずほ台小学校に5校が集まり行っております。これもコロナ禍のときに実施できなかった年もあるのですが、ま

ずは6年生だけで復活して、翌年には5、6年生で復活というような形で現在ではコロナ禍以前と同じような形で行っております。

【星野市長】

その大会にも私や山口先生も呼ばれておりまして、半分半分で行っているのですが、私は挨拶を必ずさせていただいているので各学校のプライドをくすぐるようにいつも声かけをしています。先ほどの宮委員がおっしゃっていた競争心、愛校心を持って競技に臨んでもらえればと思ひまして、そんな意味でいつも学校名を大きな声でコールして、それに全員で答えてもらうような挨拶をしています。やはり違う学校の子どもたちと競うということは良いことですな。

【深野委員】

ありがとうございます。ふじみ野小学校で放課後の子どもを見ていますが、昔よりは図書室に集まる子が増えているような印象はあります。あと校庭でサッカーをしているチームも以前はサッカーしていると高学年の子が小さい子に声をかけて一緒にやろうと言って組んでいたのですが、最近は学年ごとで別々でやっていますね。同じゴールを使うので、途中でぶつからないかと思ってハラハラしますが、うまいことよけながらそれぞれやっていてそれも面白いなと思ったのですが、他の学年と関わるような活動もしていますし、声もかけてはいるのですが、最近の子はおとなしいのか小さい子に声をかけてとまではいかないみたいだなと思ひながら見ています。

あと、体育館の方でもせっかくバドミントンとか色々あるのでやらせてあげたいのですが、少し狭いのでバスケットボールとか、あとは最近ではテニスの人に来てくれるので、テニスを少しやったりしているのですが、以前はよく走り回っている子もいました。ただ走り回っているだけで疲れないの、と声をかけるのですが、そういう子も少なくなってきた印象はあります。

あと、近隣で走り方のコツを教えてくださいる講義があつてとても人気だったみたいです。難しいことでなくても、ちょっとしたコツとかでも運動が好きになるきっかけみたいなことになって良いと思ひました。

【星野市長】

ありがとうございます。それでは杜多委員、お願いします。

【杜多委員】

授業の実践の内容で少しよく理解できない点が一つと、それから芝生だとボールをついて遊ぶのは、なかなか逆にできないのかなと。つるせ台小学校の芝生で力いっぱい汗をかき運動が好きな児童を育てるタイプの授業の実践、その後の関わる事ができる、を増やすタイプの授業、というふうに思ひました。つまりバスケなんかですね、バスケのゴールはあちこちに作っても、それぞれ小さい集団でボール一つあれば、みんなで遊べます。敏捷性は、やはりある程度ボールとの関わりが大きいと思ひます。それから、教師の目というものが届くところにやはり子どもたちを置きたいという考えはあると思ひますが、例え

ば三間の空間という部分の中に、体育館は入っているのでしょうか。体育館の中というのは多少なりのルールを作れば、今日はバスケット中心とか、あるいはバドミントン中心とか、そんなものでも工夫をすれば教師の目というのも楽になるのかもしれないと感じました。

それから外部指導者に関しては、その外部指導者が他校に行ったり来たりしているうちに、ポイントというか、学校それぞれに特色があるでしょうからその特色の中でアドバイスができていくのではと思いました。

少しごちゃごちゃしてしまいましたが、放課後児童クラブの利用というのも一つプラスになるかもしれないということと、外部指導者をずっと同じ学校に来てもらうのではなくて、色々な学校を回してもらうという形も良いかなと思いました。そして、資料の成果の報告が実践紹介に終わらずに、児童生徒の学びの質の向上や学力向上の実績を伴う報告となるように配慮する必要があるという文章が課題の中にありましたが、体育の先生以外にも共有できる形にしたほうが良いと思いました。また、敏捷性というものは測るというところに中心を置かなくても、それが何か遊びに繋がられるような、そんなところに注目していく、あるいは研究していくというような成果であっても良いのではとも思いました。

【星野市長】

はい、ありがとうございます。林先生、いかがでしょうか。

【学校教育課 林指導主事】

ありがとうございます。まずつるせ台小学校の芝生関係ですが、私が認識している範囲ではつるせ台小学校ではバスケットゴールが校庭に置いていない状態となっており、基本的に体育館で授業を行うという形で行っております。

あと、杜多委員がおっしゃられた体育館も三間の解決の一つとしてということはその通りでして、把握しているところではふじみ野小学校では担任の先生と一緒にあれば体育館を利用して良いというところもありますし、南畑小学校では各低・中・高のブロックと呼ばれる学年で利用することができる、使うときには先生と一緒に使うというような約束で運用しているところもあります。逆に水谷小学校では使う計画をしていたのですが、クラス数が多くて安全面などを考えるとなかなか利用させられないというような現状もございました。

もう一つ、つるせ台小学校の副題である、「かかわる」ことで「できる」を増やす体育授業の実践、というところですが、この「かかわり」というところに関しては、主につるせ台小学校では、児童同士がかかわることで、できることが増えていくのではないかと、また、それにより運動が好きということに繋がるのではないかとということがございます。埼玉県全体としての課題で、体力は非常に高い一方で、運動好きの割合がなかなか上がらず運動好きの割合としては全国の中でも上位ではないという課題がございまして、その課題にも迫る一つとして友人に教わったり支えられたり、補助されたりすることによってできることに繋げるということがございます。授業の中でも、アドバイスをもらうだけではなく、直接的に手押し車で支えて運動をすることや、友達と何か一つ関わりながら運動をさせるということを研究のポイントとして入れていったところでございます。

【杜多委員】

バスケットボールについてですが、運動量として考えるとバスケはすごい運動量だと思います。敏捷性についてもかなり必要だと思います。突然ボールが来てもぱっと受けられるということも含めて、先ほどゴールがないというお話もありましたが、確かに移動式ゴールは強風で倒れてしまったり、あるいは乗ったりして倒れてしまうという危険性がありますが、ただやはり小さな公園とかに行くと大抵は子どもがみんなで集まってバスケをやりながら会話をしている光景もありますので、やはりゴールに関しては、少し芝生をよけて、どこかボールが付きやすい場所を考えて設置するのが良いのではと思います。

バスケはボール運動と呼ばれる領域の中では、ゴール型といいまして、攻守が入り乱れ、攻めていたと思ったら瞬時に守りに切り替わるというような特性がございます。このあたりを味わわせることが非常に大事だと私も考えているのですが、先ほど宮委員もおっしゃっていた競争を避けるところがありまして、特にバスケやサッカーは、身体的接触もかなり伴ってくるところがあり、学校の方でも色々と工夫して実施しているところなのですが、なかなか子どもたちの実態も含めて学校も悩んでいるところかなと感じております。

要は結果的に記録を伸ばすためには、学力と同じように得意なものをしっかり作って、その得意なものがデータを上げると全体的に上がっていくという、そんな部分もあろうかと。一方でそうすると、いわゆる目から漏れてしまう子どもたちの対応というものを分けて考えていくということも必要で、一緒になって全部が体力向上ということになると常に全体を見なくてはならないので、個々の能力というものが少し遠ざかった形になってしまうのではないかなという気もしました。

【星野市長】

はい、林先生、その辺りのところをお願いします。

【学校教育課 林指導主事】

はい、ありがとうございます。

新たな視点でどういった児童生徒を対象として、どういった手立てを講じていくかという視点も持って取り組んでいこうと思います。今日のご報告で提示しました、例えば外部指導者にしても、知識技能として高い児童生徒を対象とするのか、そうすると、より専門的な知識が求められてくるでしょうし、逆に、運動が苦手な児童生徒になると、本当に初歩的なちょっとしたコツによってすぐできる、わかるような体験をさせてあげることや、すぐにルールが理解できて魅力のある運動を提示して体験させてあげたりすることが目的、手段として変わってくると思いますので、その辺り、児童生徒のどこを狙った指導とするか、絞るという視点も必要かと思います。

【星野市長】

ありがとうございました。では、山口先生お願いします。

【山口教育長】

はい。まず体力低下の要因について、私は3点あると考えています。

一つは進んで運動する子と、そうでない子の二極化ということが言われ始めてしばらく経ちますが、私が担任をしていた頃は、体育の授業が好きかという質問をすると、好きという子どもたちの割合が95%以上、100%に近い割合でしたが、先ほど報告があったように今は80%台に落ちている。だから自ら進んで運動する子の割合が減っていますので、体力の平均値は当然下がるということになると思います。

二つ目は、余暇の使い方ですが、これは大人もそうですが多様化していて、子どもについて先ほどスクリーンタイムの話も出ましたが、今はもう2、3歳からタブレットやスマホ、ゲームの時代ですので、運動をしないで過ごす時間というのは当然増えてくるわけです。なのでそのような多様化が、この二極化にも繋がるし、体力の低下にも繋がっていると思います。

三つ目は、今のことに関係しますが、相対的な運動時間、先ほど三間の話が出ましたが、運動時間に加えて、運動の質や量も低下しています。時間が減れば量が減りますが、質も変わってきている。市長が最初おっしゃったように、子どもの頃で考えると、多くの子が放課後野球、土日は指導者に教わりながらという形がありましたが、今は多様化が進んでいますので、必ずしも専門家に教わらないということであると体力低下に繋がっていくと思います。

一方で、その改善策をとってきているという報告も先ほどさせていただきましたが、その中でラバーリングなどを購入したことの効果は一定程度出てきていることが先ほど数値でわかったと思います。これを継続していくことが大事と考えております。それからもう一つは、林指導主事の報告にもありましたが、アスリート招聘事業がかなり学校にも好評ですし、それから専門的にその運動に取り組んできた人のアドバイス、見識を得ること、子どもたちに話してもらうということは、子どもたちへの運動刺激がとても高く、運動への意欲を高めることに大きく寄与している、そういうことではこれを続けることもこれから更に伸びしろがあって、今後も体力の向上傾向を続けていきたいと思っておりますので、意欲を持って、学校も子どもたちも取り組んでいけたらというふうに思っています。

以上です。

【星野市長】

はい。ありがとうございました。

それぞれのお立場、お考え、ご経験からの様々なご意見をいただき、ありがとうございます。私からいたしますと、運動をする環境整備といたしまして夏場の課題等については18校の体育館に空調を設置するという工事を、おかげさまで完了することができ、真夏でも屋内で授業ができるようにすることができました。つるせ台小学校の芝生化については、要因として、ご近所の迷惑になる砂埃を解消してほしいという地域要望もありましたことと、それと、スプリングラ設備が元々芝生化する前から付いていた、芝生化に取り組む環境があったということですね。怪我の功名もあったのですが、我々としてはそういったハードの整備をさせていただいております。

今後ですが、そのハードの点では、ららぽーと富士見の反対側に今産業団地を整備しておりまして、今年度中に造成工事が終わり、土地の引き渡しが終わった後はそれぞれお買

い求めの企業の皆さんが社屋や倉庫等の施設を建てます。その中で我々が県の方から許可をもらって、公園にする場所が三つございます。一つは一番北側、清掃センターに近い場所、ここは三日月型をしておりまして、ドッグランにするという計画で行っております。それから今の福祉施設のところのすぐ横に、ボール遊びができる公園、この10年来子どもたちから直接要望もいただいております、サッカーができない、キャッチボールができないという要望が結構ございます。それに対する町会長さんのご意見などもありまして、この公園はボール遊びができる公園にさせていただきました。

それ以外に、あれだけの田んぼを産業団地にしますので、台風大雨のときにですね、元々田んぼは貯水力を持っていましたが、それを造成工事によって貯める池を今作っています。貯水量を確保する必要がありますので、これはかなり大きいもので深さも2メートルぐらいのものです。そこをですね、コンクリートで、造成します。そうすると、アーバンスポーツの場所にならないかという検討を市長部局では既にしておりまして、ここを借り受けて、BMX、またはスケートボードなど、アーバンスポーツと言われるようなスポーツの練習場、競技場をですね、セクションといったバンクとか、ジャンプ台とか大変高いものなので、大きな課題ではありますが、ただかなり広い場所ですので、そうしたものに使ってまいりたいと今考えております。これは大人や青年の皆さんにも使っていただけるようなものにと考え、整備を進めたいと思っています。

それからもう一つ、先生方からのお話の中でいくつかキーワードで出てきた放課後の時間の過ごし方、放課後児童クラブについて、全ての小学校で指定管理者制度において受けていただいております。皆様からも遊びを奨励していただいておりますので、外遊びをもっと促進するような内容にならないか、今思った次第です。

もう一方で、今日のテーマは体力ですが、学力の向上についてという部分もございまして、これまで教育部の生涯学習課が担当で、我々、公が行う塾で、イブニングスクール、それからサタデースクールという取組を今年も行っております。これを衣替えをしたいと今考えておりまして、より多くの子どもたちにこうした環境を提供できないだろうかということを考えており、宿題を見るといったことを、放課後児童クラブではなくこうした形でできないか、まだこれは議論が途中ですので固まっておりますが、その中に先ほども議論の中に多く出てきました外部専門家のアスリートによる指導、これが子どもたちも非常に興味をもってもらい有効であると、なのでもしかしたらスポーツに関する科目をそこに入れても良いのではと思ったりもしました。これからのお盆明けに実施計画というのですが、議論がありますので、先生方から今いただいたキーワードを、そこにちょっと私としても、所管の教育部長、生涯学習課長とともに議論したいと思ったところであります。

それから私が子どもの頃、小学校6年生はソフトボール大会を、5年生は当時はポートボールという、バスケットボールのゴールが人の競技ですね、台の上に人が乗って待っていて、そこにボールを投げるといった競技ですが、その大会を行って行きました。運動会もそうですが、ソフトボールの選手になること、ポートボールの選手になることが、我々としては花形選手でした。ミニバスや、陸上の大会があるので、これはなかなか場所と、それから時間が取れないという現代的な難しさがありますが、そういうことも面白いと思ひまして、復活できないだろうかと思ひます。杜多先生からはバスケを復活できないかとおっしゃっていただいたりして、今日いただいたキーワードの中から少し拾っているわけで

すが、遊びから体力の向上に繋げていくことなど、たくさんのヒントをいただきました。

それからもう一つ、私と山口先生で1ヶ月ほど前に訪問をしてきたのですが、谷津幼稚園さんから市役所方向へ来る途中の道路の右側に、小児科の先生が新しく開業しました。HERO'sファミリークリニックの小島さんという若い先生で、イムス富士見総合病院の小児科でいらっしゃった先生で、ER、救急についても高い経験をお持ちの先生が、今年の春に、クリニックをオープンいたしました。機能障害や運動障害のある子どもたちの運動によるリハビリテーションも行っており、それからもう一つ、いわゆるロコモティブシンドローム、健常児なのですがなかなかその運動が、一步踏み出せないというお子さんたちも多いんだそうですが、それを小島先生曰く、医学的に解決できないだろうかということで、子どもたちが運動しやすいリハビリという形をとって取り組んでいらっしゃる。以前に私、そういう勉強をしたことがありまして、私が勉強したときに宮崎大学の医学部の先生でしたが、体育座りができない子どもたちが増えているとかですね、色々そういった状況があるというようなことから、近所に良い専門医が開業されたということで先日、私と山口先生の2人でクリニックの見学と、先生がお考えになっている内容を聞いてまいりました。大変熱心な先生であり、この分野にける想いというものも強く感じました。ぜひまずは学校の先生方に対する情報提供や、または子どもたちに対する指導の仕方などを提供できないだろうかという話を少ししてまいりました。まだ具現化するには時間が掛かるとは思いますが、そういった医療スポーツの専門家もしかり、医療の運動機能や、こうしたものに関わる先生もそばにいらっしゃる、もちろん現在も既に小児科に権威の方がいらっしゃって、これは生徒指導などの関係でも大変お世話になっております。そういった外部のお医者さんなどもいらっしゃいますので、ぜひそういった先生方のお力もお借りしたいと思ったところでございます。

今、色々私からお話しさせていただいた所ではございますが、先生方からも目指す方向性というものを示していただきました。さらに山口先生からは現在の取組についての有効性というものがここ数年で証明されており、これを継続していくというお話をいただきました。これはもちろん私も支持させていただきたいし、継続的にプッシュさせていただきたいと考えております。そしてさらにそのプッシュするための予算的な措置や、または、もうひと段階、先ほど杜多委員からも強い分野を作ることもどうだろうというご提案もいただきましたが、そうしたことに対する予算的な措置も含めて、こうしたことも考えています、というような、もちろん現時点では確定でなくても結構です。教育部、学校教育課の皆さんの中でお考えがあるならば、ご披露いただきたいと思います。

【下田教育部長】

次なる一手ということで、これまで様々な議論はさせていただきました。そういった中で、市長に先にお話されてしまいましたがHERO'sファミリークリニック、これも次なる一手の一つであるということで我々も認識をしております。ただ、すぐに児童生徒にということは難しいとも思っておりましたので、まず教職員がこの先生から色々とお話を聞いて、その内容を噛み砕いて子どもたちに対して指導できるような体制を整えられないかというのが、次の一手としては考えられるのではと思っております。すぐに、ということは難しいので来年度の実施計画、そこにはそういったことも踏まえて提案ができればと

いうことは学校統括監も含めて議論させていただいておりました。

それ以外につきましては先ほど教育長からも話がありました通り、一定程度今の取組について成果が出ている部分もございますので、こちらについてはしっかり継続をいたします。それに加えて、林先生の方からも様々な他市の事例等の説明もございましたので、他市の事例で成功しているものを積極的に取り入れていけるような体制、それも合わせて整えていきたいと考えてございます。

この児童生徒の体力向上、こちらは非常に重要なものと考えており、しっかり成果が出るような取組を教育部としても打っていきたいと考えております。教育委員の皆様からも様々なご意見をいただきながら、そういったところを進めてまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

【星野市長】

ありがとうございます。林先生から何かございますか。

【学校教育課 林指導主事】

今、部長に申しただいたような内容ではありますが、専門家に色々と知識をいただいて、やはり今まで私も授業を行ってきましたが、先輩や、実際に自分のクラスの子たちを見てきた経験則によるところが多かったと今改めて実感しています。それをこれからの段階では、科学的にしっかり数字などで証明していきながら進めていくことも、今後さらに伸ばしていくためには必要なのかなというふうに、今回いろいろ議論を重ねさせていただいて、実感しております。

あと今、運動時間はどうしても学校現場では限られていて、先ほど市長がおっしゃったように運動を気軽にできるような公園などは、こういったところが欲しいという声は確かにありまして、先ほどお示ししました調査の中でも気軽に運動できる場所があれば運動してみたいという子も一定の割合でおりますので、そういった声に答えられるような場になるのではと思いました。

今回放課後児童クラブのお話もありましたが、確かに在籍する児童数も増えております。学校の方も日課表を変更して、放課後の時間が少しだけ以前よりも長くなっている現状もございますので、色々な連携を取っていくのも一つの方法ではあると思いました。

【星野市長】

ありがとうございます。ちょうど時間の方も終わりに近づいておりますので、これで締めさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。はい、ありがとうございました。

子どもたちの体力向上については、今回、様々なご意見をいただきました。私ども市長部局、また市長としても、関心の高い項目でありますので、政策の継続と、さらにこれを発展できるよう我々も努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

貴重なお時間をいただきまして、誠にありがとうございました。本日予定しておりました議事はこれで終了いたしますので、事務局に戻したいと思います。どうもありがとうございました。